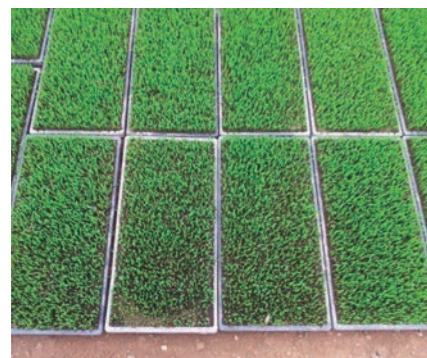


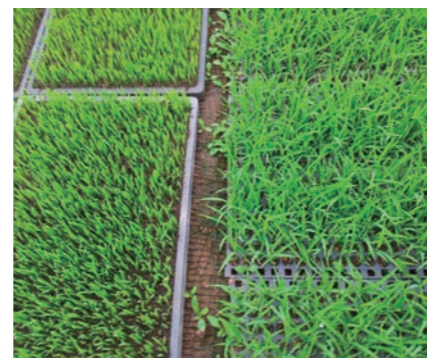
水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験



試験区



慣行区



左:慣行区、右:試験区



試験区



試験区



試験区

試験目的	水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験	
試験作物 及び品種	水稲(ほしまる)	
試験資材 及び数量(規格)	こめパワーマット 200枚	
慣行資材	育苗培土	
栽培方法	播種日 5月13日	
資材使用期間	5月18日~6月1日	試験区面積 8反

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**
 マットは培土と比べて軽量のため、土の充填作業が楽になった。水量の管理において、慣行品よりも灌水機の灌水を1往復多く行った。田植え機で移植する際、慣行品よりも自重が軽いせいか、滑りが悪く感じた。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**
 3日目で発芽が確認できたため、生育は良好であった。移植後の生育についても差はなかったと思われる。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について**
【優位点】：今回は約20日間の稚苗の育苗にマットを使用した。ポットを使用した成苗育苗の場合、1枚当たりの播種量は約200ccであるが、マットを使用した稚苗育苗の場合、約400ccの育苗をすることができ、限られた面積でより多くの作付が可能となる。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について**
 特に気になる点はなかった。
- (5)促成・抑制効果について**
 育苗・移植後、ともに気になる点はなかった。
- (6)雑草・病害虫の発生について**
 稚苗育苗では肥料成分をほとんど吸収しないため、病害の発生を抑えることができると考えている。

モニター感想

限られた面積の中で作付・収量を向上させていくために、稚苗育苗に注目している。今年度は直播の品種ほしまるで試験を行ったが、来年度は各研究機関と連携の上、他の品種でも試験を行いたい。

JA担当者の感想(桑原主任)

試験品は従来の培土と比較し軽量なため、作業省力化が期待できる。また、培土よりも使用数量を明確にできるため、仕入れを行いやすい。生育について、今年度は良好であったが、来年度も普及センター等と連携を取り、継続試験を行いたい。

今後の使用について

改良して欲しい。
 マットを用いた稚苗育苗の試験は今後も継続していきたい。根がハウスに張るのを防止、田植え機での滑り向上にむけて、マットの裏に不織布をはるなどの改良をしてほしい。また、稚苗育苗での使用にあたっては肥料成分を必要としないので、低コスト化へ向けて無肥料のマットを製造してほしい。

将来希望する資材について

こめパワーマットの無肥料版で低コスト品。

- 1 クリント
- 2 高温対策
- 3 害虫忌避効果
- 4 滑雪効果
- 5 生分解性マルチ
- 6 その他
- 7 酪農資材